

佐賀大学附属図書館  
自己点検・評価書  
令和4年度

令和5年7月

佐賀大学  
学術研究部情報図書館課

# 目 次

I	附属図書館の目標・計画	1
II	附属図書館の概要	2
III	領域別評価	
1	教育支援	3
	(1) 資料の計画的収集	
	(2) 資料の提供・活用	
	(3) 情報リテラシー教育支援（図書館オリエンテーション）	
	(4) 学外図書館からの文献入手（図書館間相互貸借 ILL:Inter Library Loan）	
	(5) 読書奨励	
	(6) 自学自習環境の整備	
	(7) 広報	
	(8) 評価及び課題	
2	研究支援	7
	(1) 研究用資料の収集	
	(2) 電子ジャーナル	
	(3) 文献等データベース	
	(4) 研究情報・文献情報の電子化	
	(5) 評価及び課題	
3	社会貢献	8
	(1) 市民への情報サービス	
	(2) 公開講座（講演会、展示会）	
	(3) 貴重資料	
	(4) 貴重資料の利用	
	(5) 評価及び課題	
4	組織運営	10
	(1) 組織の編成・管理運営	
	(2) 財務	
	(3) 評価及び課題	
5	施設・設備	13
	(1) 施設、設備等の整備状況	
	(2) 施設、設備等の利用状況	
	(3) 評価及び課題	

## I 附属図書館の目標・計画

### 1 第4期中期目標期間（令和4年度～令和9年度）における目標及び計画

附属図書館は、佐賀大学における教育、研究及び社会貢献等の諸活動を支援するため、必要な図書、雑誌等の資料はじめ学術情報を収集し、整理、作成、保存して提供する。特に、学生の自発的な学修・研修を実施するラーニング・コモンズ施設を整備するとともに、本学に在籍している外国人留学生及び海外に留学する学生に対する支援のため、体系的かつ網羅的に図書館資料を収集する。また、研究を推進するための電子ジャーナル・文献データベース等の情報コンテンツを安定的に提供する。さらに、本学の社会貢献のひとつとして、地域に開かれた生涯学習の場としての活動を推進していく。

#### (1) 教育に関する目標・計画

能動的学修の実施、学士力の向上、グローバル化を推進するため、附属図書館は教員、学生との協働のもと、留学関連の図書をはじめ図書館資料の整備、利用を支援する。また、学生の能動的学修を支援するため、ラーニング・コモンズを整備し、学修環境を整備する。  
(第4期中期計画番号3-1に該当)

#### (2) 研究に関する目標・計画

研究環境の整備、研究成果を還元するため、附属図書館は研究を推進するための電子ジャーナル・文献データベース等の情報コンテンツを安定的に提供する。また、学内で生産される教育研究成果の発信、保存のリポジトリ機能を担う。(第4期中期計画番号5-1に該当)

#### (3) 社会貢献に関する目標・計画

本学が生涯学習の場として機能するため、附属図書館は地域及び全国の公共図書館・大学図書館その他の組織と資料の貸出等において積極的に連携する。また、貴重書デジタルアーカイブの公開を推進するとともに、貴重資料の展示・講演会を開催して、社会に貢献する。  
(第4期中期計画番号11-2に該当)

#### (4) 業務運営に関する目標・計画

IR機能を活用したエビデンススペースの経営を推進するため、附属図書館は自己評価と外部評価を定期的実施する。(第4期中期計画番号11-1に該当)

## II 附属図書館の概要

### 【資料】Ⅱ-1 蔵書数、Ⅱ-2 図書受入冊数、Ⅱ-3 雑誌受入種類数、Ⅲ-1-2 電子書籍導入状況 Ⅲ-2-1 電子ジャーナル導入状況、Ⅲ-2-3 文献等データベース、Ⅲ-5-1 面積・閲覧 座席数・書架収容力

附属図書館は、教育学部、芸術地域デザイン学部、経済学部、理工学部、農学部がある本庄キャンパスに本館、医学部がある鍋島キャンパスに医学分館を配置する。

#### (1) 施設・設備

本館は、鉄筋4階建てで総面積5,332㎡である。ラーニング・コモンズ、閲覧室、閲覧個室、グループ学習室、マルチメディアコーナー等の利用者用スペースと、会議室、事務室等の管理スペース及び書庫等を有する。1階から4階が利用者用スペースとなっている。利用者用スペースには座席629席を備え、無線LANなどネットワークを利用した学修環境を整備し、学生及び研究者の学修、研究の能率向上を図るよう配慮している。

本庄キャンパスには本館建物の他に旧館書庫332㎡を有する。

医学分館は、鉄筋2階建てで総面積1,769㎡である。座席261席を備え、無線LANなどネットワークを利用した学修環境を整備し、図書等の蔵書構成、配置等について十分に検討し、自学自習が効率よくできるよう配慮している。

両館とも設備・備品として、退館管理システム(BDS)、図書自動貸出返却装置、全館冷暖房設備、エレベータを備えている。また、館内では、パソコン・視聴覚機器を設置している席を除き、密封できる容器に入った飲み物の飲用を認めている。

#### (2) 図書館資料

本庄キャンパスでは、図書(視聴覚資料を含む、以下同じ)は、教育研究組織・教育課程に即し、医学・看護学を除いたほぼ全分野にわたる資料571,922冊を所蔵している。内訳は、和書405,823冊、洋書166,099冊である。

雑誌は、人文・社会・自然各分野にわたる国内外の学術雑誌、大学論集、紀要等合わせて9,517種類を所蔵する。また、附属図書館閲覧室に配架の学習用雑誌は、学術雑誌から就職に関わる受験雑誌等まで幅広く収集し、提供している。

医学分館では、図書は、医学・看護学を中心に108,705冊を所蔵している。内訳は、和書66,730冊、洋書41,975冊である。雑誌は、医学・看護学関連雑誌を中心に一般教養雑誌を含め2,363種を所蔵している。図書・雑誌ともすべて開架書架に配架し、提供している。

また、全学で利用できる電子的資料として、文献等データベース10種及び、主要出版社の電子ジャーナルをはじめとして全10,133種の電子ジャーナル、20,278点の和書・洋書の電子書籍へのアクセスが可能となっている。

## Ⅲ 領域別評価

### 1 教育支援

#### (1) 資料の計画的収集

【資料】Ⅱ-1 蔵書数、Ⅱ-2 図書受入冊数、Ⅱ-3 雑誌受入種類数、Ⅲ-1-2 電子書籍導入状況、Ⅲ-1-3 電子書籍アクセス数、Ⅲ-1-4 図書除籍冊数

#### 本館

##### ①資料費の確保

教育・学修支援を使命とする附属図書館では、学生用図書、電子情報資料等（以下、学生用資料）の資料費の確保は最も重要な課題の一つである。資料費は法人化直前に大学の経常経費として認定され、法人化後は図書館への基本予算として計上されている。

##### ②学生用資料の選定と収集

学生用資料は、本学教員と図書館職員で構成する附属図書館選書専門委員会で購入計画を立案し、計画的に収集を行っている。

学生リクエストの活用や学生選書の実施、就職支援や留学支援等、関係部署と連携しての選書等、様々なニーズに対応する取り組みを行いながら、学生用図書の整備に努力している。

##### ③シラバス掲載参考書

学習用図書として特に重点的に収集を図る必要がある資料として、シラバスに掲載されている参考書がある。新年度当初にシラバス掲載参考書を利用できる状態にするには前年度内に資料を購入し整理しておく必要があり、教員、学務部の協力によるシラバスの早期登録、シラバス中の図書情報の体系的な抽出により実現している。

令和4年度は、参考書指定の図書については、401冊購入した。

##### ④学生希望図書

学生が図書館で読みたい図書をリクエストできる「学生希望図書制度」をWebシステムで運用している。リクエストされた図書は館内で審議を経て購入している。令和4年度は506冊購入した。

##### ⑤学生選書

読書奨励企画として、本館及び医学分館の選書を希望する学生を公募し、選書を実施している。令和4年度はコロナ禍のため、オンライン選書として、学生各自がWebサイトから図書を選書した。205冊を購入し、図書館入口に近い場所に特設コーナーを設置して配架した。

##### ⑥就職支援・留学支援に関連する図書の収集

令和4年度は、学生の就職活動支援に関連する図書を209冊、また留学支援に関連する図書を50冊購入した。

##### ⑦電子書籍

シラバス掲載の参考書を中心に、学外からもアクセス可能な電子書籍の整備に努めた。また、令和5年度に向け、学外からもアクセス可能な新刊小説、文学賞受賞作品、就活支援図書等を収載する電子書籍を整備した。

## ⑧資料の除籍

書架の利便性の向上を図るため、旧版図書や受入後一定年数経過した図書を書架から除き、2,876冊の除籍を行った。

## ⑨蔵書点検

蔵書点検計画に基づき、開架（NDC5～NDC9、新書、文庫、佐藤文庫、東洋文庫、大型図書、留学生用図書）、本館旧書庫（NDC4、旧制佐高(数学～工芸)）、研究室貸出図書（理工学部）について、該当図書の点検を実施した。

## 医学分館

医学分館における研究用及び教育用の図書・雑誌の整備は、医学部教員で構成される医学分館運営委員会で検討を行っている。医学部のシラバスに掲載された参考書はすべて収集しているほか、医学部教員等に図書の推薦を依頼している。学生リクエストの活用や学生選書の実施により、学生目線の選書にも留意している。

また、医学・看護学という専門の性格上、常に最新版の資料を収集するよう留意している。所蔵する専門図書、参考書の改版・新版等を積極的に収集するとともに、改版等や年月の経過により利用価値を減じた図書5,105冊を除籍し、書架の活性化に努めている。令和4年度は、蔵書点検計画に基づき、開架（図書、視聴覚資料）、研究室貸出図書について蔵書点検を実施した。

## （2）資料の提供・活用

**【資料】Ⅲ-1-1 利用対象者数、Ⅲ-1-5 開館時間、Ⅲ-1-6 年間開館日数等、Ⅲ-1-7 入館者数  
Ⅲ-1-8 貸出条件、Ⅲ-1-9 館外貸出状況**

### 1) 開館時間等

#### 本館・医学分館

医学分館において、改修後のオープン準備のため、令和4年4月1日～4月20日を臨時休館とした。

### 2) 貸出条件等

#### 本館・医学分館

資料Ⅲ-1-8のとおり運用している。

## （3）情報リテラシー教育支援（図書館オリエンテーション）

**【資料】Ⅲ-1-10 オリエンテーション実績（本館）**

#### 本館・医学分館

例年4月中旬から5月末を中心に、授業担当教員の依頼により指定された授業時間を使用して「図書館オリエンテーション」を行っているが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、令和4年度も対面での実施はできなかった。代替として、図書館の利用案内及び文献入手法資料を図書館ホームページ上で配布し、オンラインによる案内を実施した。令和4年度は、令和3年度と同様、館内9か所に各コーナーの説明や図書館の利用方法について記載した案内ボードを設置し、新入生などが来館した際に図書館の使い方を学べるよう工夫した。

#### (4) 学外図書館からの文献入手(図書館間相互貸借 ILL : Inter Library Loan)

##### 【資料】Ⅲ-1-11 図書館間相互貸借冊数、Ⅲ-1-12 図書館間の文献複写件数

本学は国立情報学研究所のNACSIS-ILLシステムを利用しているが、同システムの報告では国立大学全体で利用件数が減少している。これは各国立大学が電子ジャーナル・パッケージを導入したために、各大学で読むことのできるタイトル数が飛躍的に増えたことによる影響と考えられる。本学においても、文献複写や図書の貸借件数が依頼、受託とも減少傾向にある。

しかしながら、世界的な発表文献数の増加も手伝い、入手の難しい文献についての取り寄せ依頼の割合が増えている。また、冊子の所蔵調査に留まらず、電子ジャーナルとして公開されていないか調査を行う必要があるため、処理件数の減少は業務量の減少には直結していない。

#### (5) 読書奨励

##### 1) 図書館利用促進キャンペーンの実施

来館のきっかけづくりとして、「図書館ポイントカード」のイベントを令和4年12月15日から令和5年2月28日に実施した。図書館の利用に応じてポイントを付与し、そのポイント数により図書カードを配布するもの。これにより、令和5年1月以降の貸出者数が増加し、年間の貸出者数は前年度比で、本館は約1.2倍増加、医学分館は約2.2倍増加している。

また、ポイント付与にはおすすめ図書のポップ作成もあり、図書にポップを添えて展示することで新たな貸出を生み出している。

#### (6) 自学自習環境の整備

##### 【資料】Ⅲ-5-1 面積・閲覧座席数・書架収容力、Ⅲ-5-2 図書館利用者用端末台数 Ⅲ-5-3 アクティブ・ラーニング・スペース、Ⅲ-5-4 グループ学習室の設備

##### 本館

利用者の多様な学習スタイルに対応するため、グループ学習室5室、閲覧個室4室、マルチメディアコーナーを設置している。

また、令和4年10月3日、本館4階の旧事務室を改修して「多目的学習スペース」をオープンした。学生の自主的なグループ学習やディスカッション及び授業など、アクティブラーニングを実践する場として利用されている。

##### 医学分館

利用者の多様な学習スタイルに対応するため、改修工事によりディスカッションルーム4室、個室2室、コラボレーションエリアを設置している。コラボレーションエリアには可動式の机・椅子を配置し、ラーニング・コモンズとして活用できるように整備している。

#### (7) 広報

##### 【資料】Ⅲ-1-13 図書館 Web ページのアクセス数

##### 1) 図書館 Web サイト、SNS

本学の学生・教職員・学外の方を対象に、図書館の利用案内、施設案内、蔵書検索案内、図書館の諸活動について記録した図書館報等の情報を発信しており、スマートフォンやタブレット端末

にも最適な表示を実装するマルチデバイス対応を行っている。また、ツイッターでは、新刊本の入荷、イベント等の情報発信に加え、台風による臨時閉館など緊急情報を広く周知する場合にも発信している。

## **2) 広報誌**

学生をターゲットに、図書館の利用方法や各サービス、設備などを紹介した情報誌「さらり」を年1回4月に発行している。

## **3) 電子メールによる広報等**

教職員向けに講演会の開催案内、臨時休館等、図書館サービスの案内を電子メールにより配信している。学生向けには、学生情報システム（ライブキャンパス）を使って電子メールの配信や、お知らせの掲示を行っている。

## **(8) 評価及び課題**

### **評価（優れた点・特色ある点）**

コロナ禍の影響で入館者が減少する中、図書館（本館）の利用が前年度比約1.5倍増加している。図書館ポイントカードの実施により、入学してから図書館を利用したことがない学生やコロナ禍で利用を控えていた学生への利用促進が図られている。

### **課題（改善すべき点）**

図書館利用者（入館者）は本館・分館ともに増加傾向であるが、コロナ禍以前の入館者数には戻っていないため、来館のきっかけになるイベントなどを行い、図書館未利用者の利用促進を図ることが必要。



## 2 研究支援

### (1) 研究用資料の収集

図書、学術雑誌その他の教育研究上必要な資料は附属図書館長の管理下に置き、附属図書館、学部、センター等に配置している。

資料の有効利用のため、附属図書館では図書、学術雑誌、電子ジャーナル等すべての資料を包含した蔵書データベースを維持管理し、所蔵・配置等の最新情報を Web 上で公開して利用の便を図っている。

本庄キャンパスの図書配置割合は、附属図書館約 80%、部局等約 20%である。学術雑誌は、附属図書館に農学・理工系学術雑誌を集中的に配架し、利用に供している。一部の学部等では、学部や学科等の単位で図書資料室を置き、専門領域に関する図書・雑誌をはじめ国内外の大学論集・紀要等を収集配架している。

鍋島キャンパスでは、旧医科大学時代から全図書、全雑誌を医学分館に集中配架し、教員、学生・院生の研究及び教育に供している。

### (2) 電子ジャーナル

#### 【資料】Ⅲ-2-1 電子ジャーナル導入状況、Ⅲ-2-2 電子ジャーナルアクセス数

本学教員に対して令和元年度に実施した電子ジャーナル整備検討に関するアンケート結果を踏まえ、令和3年度から令和5年度まで、エルゼビアパッケージ、シュプリンガーパッケージ、ネイチャー本誌を継続契約している。

### (3) 文献等データベース

#### 【資料】Ⅲ-2-3 文献等データベースサービス

中央経費により契約しているスコーパスを令和3年度から令和5年度まで継続契約している。

### (4) 研究情報・文献情報の電子化

#### 【資料】Ⅲ-2-4 佐賀大学機関リポジトリ登録数及び閲覧数

「佐賀大学機関リポジトリ」は紀要論文、博士論文を主として収集している。紀要論文の多くは、登録時の著作権処理について各部局との交渉を進め、包括許諾を得ているため、刊行のたびに著作権処理をすることなく登録可能であり、継続して登録を進めている。

### (5) 評価及び課題

#### 評価（優れた点・特色ある点）

登録数が少ない学会誌論文や商業誌論文の登録を促すため、オープンアクセス方針の策定を行い、令和5年2月に制定している。

#### 課題（改善すべき点）

学内紀要及び学術雑誌に掲載された研究成果については、機関リポジトリに登録することになっているが、登録もれなどが発生しているため、オープンアクセス方針の制定・実施により、登録・公開する体制を整える必要がある。

### 3 社会貢献

#### (1) 市民への情報サービス

##### 【資料】Ⅲ-3-1 市民への貸出状況

##### 1) 入館、館内サービス

令和2年度から新型コロナウイルス感染拡大防止のため、市民の入館、情報サービスを制限していたが、本館は令和4年11月21日から市民の入館、貸出を再開した。医学分館は医療従事者以外の入館、貸出を制限している。

##### 2) 佐賀県内図書館等との文献複写・相互貸借サービス

本館・医学分館ともに公共図書館等からの依頼に応じ、文献複写・相互貸借サービスを行っている。医学分館は近隣の病院図書室等からの依頼にも応じている。

また、佐賀県内の公共図書館からなる独自の図書配送システム(佐賀県内図書館物流)へ令和4年4月から試行的に参加し、貸出・借受の実績や作業量の変化を検証した。その結果、本学図書館の利用者や佐賀県内公共図書館の利用者が無償かつ迅速に図書を取り寄せることが可能となり、作業負担も従前と変わらないことから、令和5年4月からの正式参加を決定した。

相互貸借は「佐賀県公共図書館と佐賀県大学図書館間の相互貸借規程」及び「県内相互貸借各館規定」に基づき運用している。

##### 3) 佐賀県内図書館横断検索システム

佐賀県立図書館、県内の市町村立図書館及び県内の大学図書館の所蔵図書を横断的に検索できる佐賀県内図書館横断検索システムに参加し、県内の図書館と一体となった地域への蔵書検索サービスの提供を行っている。

##### 4) 看護学教育研究支援センターとの連携

看護学教育研究支援センター所属の看護師に対して、指導教員と連携して利用者登録の申請手続きを案内し、医学・看護学の専門書の貸出及び文献複写取寄せサービスを行っている。

#### (2) 公開講座(講演会、展示会)

##### 【資料】Ⅲ-3-2 図書館月間講演会 Ⅲ-3-3 図書館月間展示会

附属図書館では、市民に生涯学習の場を提供することを主目的として、毎年10月末から11月を「図書館月間」と称して、講演会、貴重資料展示等を行っている。

令和4年度は新型コロナウイルス感染防止対策により、学外者の入館を禁止していたが、展示エリアのみ入館制限を解除し、対面とオンラインのハイブリッド方式によりイベントを開催した。「附属図書館貴重書コレクション小城鍋島文庫展」と題し、江戸時代から大正時代にかけての佐賀における疫病と人びととのたたかひに関する貴重書を本館1階で展示した。また、附属図書館のホームページでも史料に関する解説を掲載した。

#### (3) 貴重資料

##### 【資料】Ⅲ-3-4 附属図書館所蔵コレクション

佐賀鍋島の支藩、小城の鍋島家に伝えられた資料、佐賀や北九州の近世文学・民俗学研究で知られた故市場直次郎のコレクション等を所蔵している。

#### **(4) 貴重資料の利用**

##### **【資料】Ⅲ-3-5 貴重資料の利用**

##### **1) 貸出**

毎年、地域学歴史文化研究センターと佐賀県小城市教育委員会の共催で開催される企画展等に貴重資料を貸し出している。令和4年度は、以下のとおり貴重資料の提供を行った。

- ・地域学歴史文化研究センターと小城市教育委員会共催の展示会「佐賀藩と小城藩-本家と分家の複雑な関係-」に小城鍋島文庫から「小城藩日記」3点、ほか7点を貸し出した。

##### **2) 貴重資料のデジタル公開**

高精細な画像を用いて、クリエイティブ・コモンズ・ライセンスの条件に基づき附属図書館貴重資料デジタルアーカイブを公開している。

クリエイティブ・コモンズ・ライセンス：<https://creativecommons.jp/licenses/>

##### **3) 画像データの利用**

所蔵コレクションの画像を用いて、地域学歴史文化研究センターが「小城藩日記データベース」を公開している。

##### **4) 展示、講演会**

令和4年10月、本館4階に貴重書展示エリアを新設し、定期的に貴重資料を入れ替えることにより、貴重資料の常時公開を行っている。

図書館月間において、「佐賀における疫病と人びととのたたかい」に関する貴重資料の展示を本館1階にて行った。

##### **5) 保存**

令和元年度に貴重資料を長期保存、利活用していくために、除湿機の新規設置、空調機の更新等を行っており、書庫内の温湿度等の環境をモニタリングしている。

##### **6) 日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク構築計画への参画**

令和3年、国文学研究資料館より「日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク構築計画」（略称：「歴史的典籍NW事業」）への佐賀大学附属図書館の参画について依頼があり、令和4年1月に覚書を締結した。同事業は国文学研究資料館が中心となって、国内外の大学等と連携し、古典籍約30万点の画像化を行い、これを検索できる「新日本古典籍総合データベース」という研究基盤を作って、国際的な共同研究のネットワークを構築するものである。本学図書館は、所蔵する貴重書のうち、一部の日本語典籍の画像提供を令和4年度から令和5年度の2年間で依頼されており、令和4年度は約12,730コマの画像撮影を完了している。

#### **(5) 評価及び課題**

##### **評価（優れた点・特色ある点）**

貴重書庫に保存している貴重資料を定期的に入れ替えて展示公開することにより、利用者への紹介に加え、資料の点検も兼ねていることから有効活用されている。

## 4 組織運営

### (1) 組織の編成・管理運営

#### 【資料】Ⅲ-4-1 附属図書館組織・機構図

#### 1) 館長・副館長

附属図書館は、平成 30 年 4 月に現在の館長、副館長制で諸般の課題解決に当たることとした。

図書館長は、附属図書館の業務を掌理し、附属図書館に設置した各種委員会の委員長として審議の取りまとめを行うとともに、学内の教育研究評議会等の委員として大学の管理運営に参画している。

#### 2) 運営委員会

##### ①附属図書館運営委員会

平成 16 年 4 月の法人化後、佐賀大学図書館規則第 5 条第 1 項の規定に基づき、佐賀大学附属図書館運営委員会を設置した。医学分館には、佐賀大学図書館規則第 6 条第 2 項に基づき附属図書館医学分館運営委員会を設置した。

佐賀大学附属図書館運営委員会は、附属図書館の運営方針、諸規程の制定・改廃、予算等に関する重要事項を審議する組織で、附属図書館長（委員長）、副館長、及び各学部から選出された教員 6 名、総合情報基盤センター長、全学教育機構副機構長、館長が指名した者として学術研究部長の合計 11 名で構成されている。また、附属図書館運営委員会の下に、附属図書館運営委員会から付託された事項の審議を行う専門委員会を設置している。

令和 4 年度は、附属図書館運営委員会を 8 回開催し、附属図書館予算案、図書館月間イベント、佐賀県内図書館物流への正式参加、図書の除籍などを審議した。

##### ②附属図書館医学分館運営委員会

附属図書館医学分館運営委員会は医学分館の運営、諸規程の制定・改廃、予算等に関する事項を審議する組織で、副館長、医学部選出の附属図書館運営委員、医学部等鍋島地区の教員 3 名の合計 5 名で構成されている。

令和 4 年度は、附属図書館医学分館運営委員会を 3 回開催し、医学分館予算案、図書等の推薦依頼、図書の除籍などを審議した。

#### 3) 専門委員会

##### ①選書専門委員会

選書専門委員会は蔵書整備、学生用図書の収集、その他の図書館資料の選定収集に関することを掌る。

令和 4 年度は、選書専門委員会を 4 回開催し、附属図書館蔵書整備計画、教員個人推薦図書、学科推薦図書の購入などを審議した。

##### ②貴重資料・地域貢献専門委員会

貴重資料・地域貢献専門委員会は、附属図書館所蔵の貴重資料の保存・公開・展示等及び附属図書館の地域貢献事業に関することを掌る。

##### ③評価専門委員会

附属図書館の自己評価、中期目標・中期計画評価及び認証評価等に関することを掌る。

令和 4 年度は、評価専門委員会を 1 回開催し、附属図書館自己点検・評価書、課題に対する改善状況、第 4 期中期目標期間における附属図書館の目標及び計画を審議した。

#### ④電子ジャーナル等検討専門委員会

電子ジャーナル及び文献データベースの契約内容、経費負担の在り方等に関することを掌る。

令和4年度は、電子ジャーナル等検討専門委員会を2回開催し、電子ジャーナル等令和6年度以降の方向性などを報告した。

#### 4) 事務組織

##### 【資料】Ⅲ-4-1 附属図書館組織・機構図 Ⅲ-4-2 附属図書館職員数

附属図書館の事務組織体制は、法人化後、人件費等管理運営経費の抑制及び効率的な大学運営による事務組織再編等により、令和4年4月現在では、情報図書館課長、副課長、総務主担当、図書管理主担当、学術情報主担当及び医学分館主担当の体制となっている。

#### 5) 事務処理の効率化

研究用資料の購入依頼受付を Web ベースのシステムで行い図書館システムにデータとして取り込み、購入依頼受付から発注処理、発注状況の管理等を合理化している。また研究用資料の購入依頼時に必要となる財源の管理を、財務会計システムと図書館システムを連携させることにより効率化している。

他大学の紀要論文のうち、本文が機関リポジトリ及びCiNiiで公開されているものは保存せず、書架狭隘化への対応及び業務の削減を図っている。

#### 6) 危機管理

鍋島地区における自衛消防隊の役割等を再認識することを目的としたeラーニングによる訓練に医学分館の職員1名が参加した。また、大規模地震対応消防計画に対応した本庄地区総合防災訓練に本館の職員8人が参加している。

#### 7) 職員研修

##### 【資料】Ⅲ-4-3 職員研修状況

職員研修について、従来は常勤職員のみを受講対象としていたが、現在は非常勤職員にも参加機会を提供している。県内図書館で実施されている研修やオンライン研修に積極的に参加しており、令和4年度は延べ12名が参加した。

#### (2) 財務

##### 1) 予算

##### 【資料】Ⅲ-4-4 図書館経費

令和4年度の配当額は、一般運営経費116,326千円（うち電子ジャーナル経費50,000千円）であった。

#### 本館

令和4年度の当初配分は、46,625千円である。この中から図書館維持費として31,100千円、

図書購入費として 15,525 千円を充てた。また、電子ジャーナルの不足分として、科学研究費補助金等の間接経費から 28,263 千円の補填額があった。

### **医学分館**

令和 4 年度の当初配分額は、19,701 千円である。この中から図書館維持費として 14,201 千円、図書購入費として 5,500 千円を充てた。

なお、医学分館は、法人化時の合意に基づき医学部及び附属病院からも別途図書購入費の配分を受けている。

## **2) 決算**

### **【資料】Ⅲ-4-4 図書館経費**

#### **本館・医学分館**

支出内容を精査し、適切に予算を執行した。

## **3) 経費節減**

### **【資料】Ⅲ-4-4 図書館経費**

#### **本館**

電気使用量等の削減を主目標とした令和 4 年度経費削減計画を設定し、空調の温度管理の徹底、扇風機・エアコンでの並行空調、事務室の昼休み消灯等を実施した。その結果、前年度（令和 3 年度）実績比で、電気使用量が約 21%削減、水道使用量が約 8%削減、ガス使用量が約 51%削減となった。但し電気料については、令和 4 年 10 月からの単価値上げにより、前年度比で約 32%の増加となっている。

## **(3) 評価及び課題**

### **評価（優れた点・特色ある点）**

電気使用量、水道使用量等の経費削減に取り組み、本館は、前年度（令和 3 年度）実績比で、電気使用量が約 21%削減、水道使用量が約 8%削減、ガス使用量が約 51%削減できている。

### **課題（改善すべき点）**

本館の電気、水道、ガスともに、使用量は昨年度比で削減できているが、電気料金については、令和 4 年 10 月からの大幅な単価値上げにより、昨年度比で約 1.3 倍の増額となっている。さらに、令和 5 年度の電気料については、年度当初から値上げが継続されるため、なお一層の削減が必要。

## 5 施設・設備

### (1) 施設・設備の整備状況

#### 1) 施設・設備

**【資料】 Ⅲ-5-1 面積・閲覧座席数・書架収容力、Ⅲ-5-2 図書館利用者用端末台数  
Ⅲ-5-3 アクティブ・ラーニング・スペース、Ⅲ-5-4 グループ学習室の設備**

図書館総面積は本館 5,332 m<sup>2</sup>、旧館 332 m<sup>2</sup>、医学分館 1,769 m<sup>2</sup> 合計 7,433 m<sup>2</sup>である。

閲覧座席数は本館 629 席、医学分館 261 席、合計 821 席である。本館（平成元年 3 月竣工）は、竣工後建物及び設備の増築、大規模改修は行っていないが、書架スペース以外の閲覧スペースを利用しやすく、明るい場所に置くなど基本設計において利用者への配慮を行っている。医学分館（昭和 55 年 3 月竣工）は、令和 3 年度に全面改修を行っており、事務スペースの効率化によって創出されたスペースをグループ学習や自学自習等に活用している。

また、利用者に快適な環境を提供するため、夏季の冷房、冬季の暖房運転の維持と設備、物品の充実を図っている。また全館において徹底した清掃を行い、快適な学修環境を提供することに努めている。

安全面では、本館、医学分館とも館内の要所に防犯カメラを設置している。また、医学分館では、セキュリティ対策として緊急通報ボタンを設置している。

バリアフリー面では、本館・医学分館ともに車椅子対応のためのスロープ及びトイレを設置し、エレベータにはマルチビームドアセンサーを設置している。また、日本語に不慣れな利用者のために、館内サインに日本語と英語を併記し、一部にはピクトサインを採用している。

#### 2) 書架・書庫

**【資料】 Ⅲ-5-1 面積・閲覧座席数・書架収容力**

本館、医学分館ともに収蔵力の不足は深刻な問題であり、配架スペースの確保のため、計画的な除籍を実施している。

### (2) 施設、設備等の利用状況

**【資料】 Ⅲ-5-5 各室使用状況（本館）、Ⅲ-5-6 多目的学習スペース及びグループ学習室 5  
入室状況（本館）、Ⅲ-5-7 会議室利用状況（本館）**

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、会議室以外の利用を停止していたが、令和 3 年 4 月 1 日から閲覧個室と視聴覚ブースの利用を再開、令和 4 年 6 月 24 日からグループ学習室の利用を再開し、全て利用可能となっている。また、本館 4 階に多目的学習スペースを新設し令和 4 年 10 月 3 日にオープンしている。

### (3) 評価及び課題

**評価（優れた点・特色ある点）**

本館 4 階事務室を多目的学習スペースとして改修したことで、グループ学習やディスカッションなどアクティブラーニングを実践する場として使用可能となり、利便性が向上している。

また、館内に貴重書を常設展示するスペースがないため、多目的学習スペース入口付近に貴重書展示エリアを新設し定期的に展示物を入れ替えることで所蔵資料の有効活用を図っている。

### **課題（改善すべき点）**

本館 4 階に新設した多目的学習スペースは、利用者が自由に出入りできる反面、不在時の消灯を 1 階の事務室から操作できないため、人感センサーを設置するなどの節電対策が必要である。